からはーい
2012年第 2号　2012/06/11

総領事　ご挨拶

５月は沖縄にとりまして重要な月でした。１５日には、沖縄県の日本復帰４０周年を祝う式典が開催されました。この式典は沖縄がこれまで辿った過去を振り返ると同時に、沖縄の未来を展望する好機となりました。ルース大使は式典の祝辞の中で、沖縄とアメリカの間に長年存在する深い人と人の繋がりについて言及し、そして特に教育交流を通した更なる絆の深化について我が

続き

★ 領事館情報 ★

6/12　英語で朝活

場所：スターバックス浦添バークレーズコート店

時間：午前7時30分～午前8時30分

6/28　講演会「あなたの中にあるリーダーシップ：変革を生み出す初めの一歩」

続き

沖縄復帰40周年記念式典でのルース大使のスピーチ

＊下記の日本語文書は参考のための仮翻訳で、正文は英文です。

2012年５月15日

野田総理、仲井間知事、ご来賓の皆様、そして沖縄の全県民の皆様、

本日皆様と共に参列できることを光栄に思います。1972年のあの歴史的な日、私は高校生でした。日米同盟の歴史の中で，最も重要な節目の一つを記念するに当たり、米国大統領を代表する名誉と責任を与えられてここに立つ日がくるであろうとは夢にも思いませんでした。

沖縄は疑うべくもなく、同盟とその使命であるところの日本の防衛および、域内の平和と繁栄の促進にとっての礎であり、数世代に渡りそうあり続けてきました。アジア太平洋地域の戦

続き

エコノミック・パルス

オキナワン・ファースト：沖縄で経済パートナーシップを構築

沖縄で経済パートナーシップを構築するための「オキナワン・ファースト」の年間を通してのセミナー、ワークショップそしてフェアが、2年目を迎えた。「オキナワン・ファースト」は事業者の皆様に、米国政府の調達手続きをより良く理解して頂き、米軍の調達担当者にそれぞれの会社のサービスや製品を紹介し地元業者の皆様が米国政府との契約でより競争的で利益を得られるよう支援している。

2012年２月３日、マット・オカーナー主席領事が「オキナワン・ファースト」業者展示会で地元の事業者の皆様を歓迎した。この展示会は、地元の供給業者に米軍基地のために物品やサービスの調達を担当している米軍の契約担当官を紹介した。ワシントンDCの空軍次官補オフィス

続き

広報コーナー

ガリオア（GARIOA）留学生

GARIOA (Government Appropriation for Relief in Occupied Area) 資金を活用して1949年から1970年までの間、約1,000名もの沖縄の若者が留学生として米国へ派遣されました。ガリオア資金は第二次世界大戦後、アメリカが占領地に対して与えた資金・援助であり、主として疫病・飢餓を防いで社会不安を除き、占領行政を円滑に行う目的で

続き

ウランダぬ風

沖縄市民会館にて行われた日米友好促進・感謝フェスティバルのビデオクリップ。

沖縄市民会館にて行われた日米友好促進・感謝フェスティバルで祝辞を述べる小池百合子衆議院議員。

旅行者をお待ちしています！50州の旅行情報・新たな発見について掲載しているディスカバー・アメリカのウェブサイト。

総領事　ご挨拶（続き）

国のコミットメントを表明しました。大使は更に、アジア太平洋地域の平和と繁栄を維持する為に沖縄県民の皆様がはらった犠牲を認識する中で、日米同盟における沖縄県の果たす重要な役割について触れられました。今回５回目を数える沖縄訪問で、ルース大使は沖縄国際大学の学生の皆様と心の通った活発な意見交換も行いました。彼は英語を学ぶことの重要性について説明し、そして学生の皆さんに基地や安全保障問題のような難題についてしっかり調査研究し自分自身で意思決定するよう励ましました。大使と仲井眞知事は、日本復帰４０周年とワシントンＤＣへの日本の桜の寄贈１００周年を記念し、沖縄の寒緋桜とアメリカのハナミズキを互いに交換することを発表しました。

沖縄国際大学で学生の質問に答えるルース大使

仲井真知事を表敬訪問したルース大使

五月の後半には、太平洋島サミットが沖縄で開催されました。アメリカ合衆国は、今回初めてこの会議に参加しました。米国代表の国務省海洋国際環境科学担当・首席次官補代理、ダニエル・クルーン氏は、沖縄滞在中、再生エネルギー、珊瑚保護、学術調査に関わる沖縄側のカウンターパートの方々とお会いする機会を得ました。代表は更に、宜野湾市にある琉球料理亭「あしびじま」で昼食会を主催し地元のリーダーの方々をお招きし、アメリカと沖縄双方の野菜を取り入れた栄養価の高い健康食をお披露目し、おもてなしをしました。これこそまさに琉球とアメリカのチャンプルー料理の素晴らしい実例でした。クルーン氏は、浦添市のアメリカンコーナーでの講話の中で、海洋政策について触れられ、現在ハワイと久米島で開発が進められている海洋温度差発電技術の商品化に向けてアメリカが強い関心を持って沖縄と取り組んでいることを話されました。このような技術は、沖縄とハワイのみならず世界中の島嶼国経済に恩恵を齎す潜在的可能性を持っています。

これら全ての相互作用は、幅広く深いアメリカと沖縄の繋がりの存在を強調すると共に、教育交流からハイテク技術に至るまで数多くの分野での協力関係が拡大していることを示すものです。過去４０年の間には共に成し遂げた称えられるべき数多くの実績がありました、そして今、これから将来に向かって私達が共に力を合わせ更に何が出来るかを考えるときであります。明らかなことは、アメリカと沖縄の関係はこれから先、よりダイナミックに進展していくことが期待できることです。

沖縄国際大学の学生と記念撮影するルース大使（中央）

1ページ目に戻る

沖縄復帰40周年記念式典でのルース大使のスピーチ（続き）

略的環境の歴史的変化にかんがみるならば、この使命は今まで以上に今日重要であり、日本とアメリカの同盟関係は、かつてなかったほど強固であります。過去同様、日米同盟は両国の未来にとって不可欠であり、この極めて重要な同盟の力強さを維持する上で沖縄の人々が払った犠牲をアメリカ人として私たちは認識しています。

しかし、私たちのパートナーシップの強みは、安全保障上の同盟にとどまりません。

それは、フルブライト奨学金や小渕沖縄教育研究プログラム等が促進する教育交流にみられるような、文化の共有と若者たちの人生を豊かにすることであり、再生可能エネルギーに関するハワイと沖縄の連携協力が実証しているように、世界の問題を解決することであり、沖縄科学技術大学院大学で行われている重要な諸研究に代表される知識の交流と新たな躍進の創出であり、また、沖縄の人々とアメリカ人からなるコミュニティーの持つ活気に反映されるような、お互いのアイデンティティーを共有することであります。

そして、本土復帰から40年経った今、親しい友人同士として一堂に会していることこそが、お互いに対して持つ変わらぬコミットメントのあかしです。ワシントンにおける最近のサミット中、野田総理とオバマ大統領が述べたように、日米のパートナーシップの最大の強みは、両国の国民間の親密な、個人的な絆にあります。沖縄ほどこの絆が強いところは他にありません。

この特別な記念日に当たり、誇りを持って過去を回顧するだけでなく、過去数十年の間、沖縄の人々と米国が培った緊密な結び付きが、今後も同盟の最大の源泉であり、その元をなす両国の力であり続けることを誓おうではありませんか。

1ページ目に戻る

ありがとうございました。

エコノミック・パルス（続き）

（取得担当）から契約担当副次官補のウェンディ・マシエロ少将がこのイベントに参加し、この展示会が空軍と沖縄のビジネス界との関係を年々強化しているとコメントした。

開会の挨拶を行うグリーン総領事

レイモンド・グリーン総領事は、4月18日に開催された「オキナワン・ファースト」ビジネス・フェアに参加した200名を超す県内の事業者の皆さんに「県内の企業には、在沖米軍とのビジネスをさらに拡大する機会が多くある」と挨拶した。このフェアは在沖米国総領事館と沖縄県産業振興公社が共催し、沖縄商工会議所、北谷町商工会、嘉手納町商工会そして在沖米国商工会議所が後援した。このフェアで10の米軍関連の契約事務所や調達部門が、それぞれの任務、顧客そして必要事項、地元企業が新しい取引業者となる機会へ焦点を当てブリーフィングを行った。各事務所から参加した調達の専門家はブースで個別面談に応じ、事業主が米軍基地との新しいビジネス機会をどう検討するかを支援をした。

クリーン･エネルギー･テクノロジー：　成長するビジネス機会

6月6日（水）、在沖米国総領事館は沖縄県との共催で環境ジャーナリストで作家でもあるクリント・ワイルダー氏の講演会を開催した。ワイルダー氏は、20年以上にわたり環境問題について取材し、最近ではクリーン・エネルギー・テクノロジーの調査やコンサルタントを行う企業のシニア・エディターをしており、クリーン・エネルギーの動向、米国の各州での様々な再生可能エネルギーの活用事例、そして米国でのクリーン・エネルギー開発で得られた教訓について講演しました。

1ページ目に戻る　　続き

広報コーナー（続き）

米政府の予算より支出されたものです。

この米国留学制度の目的は、米国内大学の学部又は大学院での勉学を希望する沖縄の青少年に、その機会を与え一般的教養と高度な教育を受けさせるということでした。ガリオア留学生のうち修士号取得者は249名、博士号取得者は64名となっています。

アメリカの大学では、このように多様な人たちと一緒に学ぶことができます。（写真提供　中瀬陽）

ガリオア留学制度を経験されて帰国した方々は沖縄の様々な分野で指導的役割を果たし、沖縄のあらゆる面の発展に寄与されています。残念ながら、この留学制度は1970年に終了してしまいましたが、当時を知る方々からは今でも再開を望む声が上がっています。

昨今は、いろいろな統計やアンケートを見ましても国際化と逆行する日本の若者の志向が浮き彫りになっています。1997年にはアジアの国々の中で日本が一番多くの留学生を米国に派遣していましたが、2009年には中国、インド、韓国が大幅に人数を増加させる中、唯一減少へと転じ大きく水をあけられてしまっています。

米国へ留学するメリットと致しましては、多彩なプログラムからの履修が可能となることや、英語能力の向上以外にも世界から集まっている留学生との交流をすることにより、国際的な人脈を形成することにも大きなメリットがあるかと思います。また、日本人留学生が米国やまた他の国から集まっている学生に日本への興味、理解を促す大きな役割をも担っていると思います。

日本に赴任している外交官の中には、大学生の時に日本人留学生と関わったことで日本という国に興味が湧き、日本語を勉強して外交官を目指したという人もいます。留学生は本人だけではなく、受入国の人々にも大きな影響を与えることが可能なのです。

沖縄県では「英語立県推進プロジェクト」を立ち上げ、将来を担う子供達の英語力の向上、また留学を幅広く推し進める計画があります。領事館も微力ではございますが、奨学金の提供や各種英語プログラムの実施を通しまして最大限の協力をさせて頂く所存でございます。将来の日米の架け橋となる子供達がたくさん世界に羽ばたいていきますように！

1ページ目に戻る

エコノミック・パルス（続き）

クリーン･テクノロジーによるビジネス機会の拡大について講演するワイルダー氏

この講演会では、琉球大学の清水洋一教授も沖縄での再生可能エネルギーの活用について講演し、100名を超える研究者や行政関係者、企業関係者が参加しました。講演後、会場からは、各州のクリーン・エネルギー指標のランキングの決定方法や日本と米国での新しいエネルギーを開発する際の技術あるいは政治的な課題、そして再生可能エネルギー技術開発における知的所有権とベンチャー企業の役割について活発な質疑応答が行われました。

1ページ目に戻る

follow us on twitter

ツイッターでも情報を発信しています。フォローよろしくお願いします！

フェイスブックを始めました。

奇跡の沖縄

★ 総領事館イベント情報 ★（続き）

場所：沖縄キリスト教大学

時間：午後1時～午後2時30分

7/3　グリーン総領事・出張講座

場所：琉球大学

時間：午後2時40分～午後4時10分

7/7　沖縄・アメリカ同窓会（仮称）

場所：ラグナガーデンホテル

時間：午前10時～午後3時

“英語おはなし会”　名護市立中央図書館・アメリカン情報コーナーにて

毎月第2・第4火曜日の18:00から18:30まで、英語でのお話を聞きに来ませんか？子どもから大人までどなたでもご参加頂けるプログラムです！

領事館と英語で朝活☆

毎月第２と第４火曜日にスターバックス浦添バークレーズコート店にて午前7時半より１時間、領事館スタッフとの英会話を楽しみませんか？英語を練習してうまくなりたいと思っている方はぜひ、ご参加下さい。

1ページ目に戻る